
保育園（ライスバージョン）

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ライスバージョン
保育園

【Nコード】

N3913L

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

保育園で巻き起こる恐怖の出来事。よい子は読んじやだめ。河野夜兎先生の「保育園（夜兎バージョン）」と読み比べてみよう。男女の思考の違いがわかるぜよ。

すみれ組で、夜兎先生がオルガンを弾きながら、園児たちが元氣よく合唱してる。

「さーいたーさーいたー」

「女の花がー」

「こらっ。ブタヲくん！」

「あーかーしろー」

「ピンクいろー若いね！おねえちゃん！まだ新品だね！」

「こら！ブタヲ！」

「夜兎先生の女の花は朝露に濡れてますか？うけけけけ」

「あーもう！エロ餓鬼！」

保育土室にて弁当を食べながら。

「あーあ。ブタヲくん。エロすぎていやん！っちゃん。どうしたらいい。ライス先生。むしゃむしゃ。ウインナーちゃん。うだい」

「あつ勝手に食うな。むしゃむしゃ夜兎先生の花は本当に濡れてるんですか。うけけけけ。から揚げちゃん。うだい」

「あーもう！同じキャラちゃんけ！それとから揚げはあげん！」

「ははは。けち。やだなあ。むしゃむしゃ。ぼくの場合は冗談ですよ。あいつの場合は天然でしょう。むしゃむしゃ。卵焼きちゃん。うだい」

「やだ。目が真剣やん。あたしのおっぱいジロジロ見ないで。むしゃむしゃ。コーラ飲ませて」

「あーもう勝手に飲むな。むしゃむしゃ。まかせなさい。ぼくが何とかします。むしゃむしゃ。にんじん食べて」

「やだ自分で食べる。心配だなあ。むしゃむしゃむしゃ。あ。ハンバーグおいしそう。いただき。むしゃむしゃ」

「ああん！大事にとっておいたのに！！！」

翌日、ライス先生が代わりにオルガンを弾いた。夜兎先生は後ろ

の方ではらはらしながら見てる。

「さーいたーさーいたー」

「女の」

ブタヲがまたやらしい歌詞を被せてこようとするので、ライス先生は、急に曲調を変えた。マイナーコードにした。

「花がああああ、あれ」

園児たちもだが、ブタヲもわたふたしてる。

葬式のような雰囲気が漂う。

「あーかーしろー」

「ピンクいろおお、あれれれ」

みんな「????」になってる。なんだか、荒城の月のような、ぐったりした雰囲気になってきた。

みんなの表情が暗い。どんよりしてる。

「せんせーもつと明るい曲やってよう」

「ライスせんせー疲れたー」

ライス先生がなおマイナーコードを多用して演奏するので、教室内、だんだん、悲壮感あふれてきた。

「うちの父ちゃん横領が発覚して解雇されて今大変なんだ」

「ママとパパが離婚しそうなの。原因はママの浮気とパパの浮気よ」

「おじいさんが隣の未亡人の下着を盗んで逮捕された。もう五度目だよ」

「おやつ盗られたから弟をマジで殴ったら死んじゃった」

園児たちの会話もなんだか園児らしくなくなってきた。

ブタヲはやけくそ気味に、元気よく歌った。

「さーいたーさーいたー！女の花がー！」

ライス先生はそれに合わせて叫ぶ。

「夜兎先生のお花、なめたいぜ！」

夜兎先生の顔が赤くなる。

「あーかーしろーピンク色！ブヒ！ブヒ！」

ブタヲに触発されたのか、ライス先生のオルガンがアップテンポ

で明るくなってきた。

「夜兎は黒いけど、すみれ組の女子はみんなピンクだぜい。イエー！」

ブタヲ負けじと声を張り上げる。

「ライスはでかくて怖いゴージャけど、すみれ組の男子はみんなかわいくてキュートなえのきだぜい。イエー！」

ブタヲはメタボな体を激しく揺らせ踊り始める。それにあわせ、ライス先生は激しく鍵盤を叩きつける。すでに16ビートだ。

いつの間にか教室は暗くなり、照明がめまぐるしく変化する。

園児たちも影響されて元気よく踊りまくる。

「夜兎先生のおっぱいが揺れてるぜ。イエー！イエー！」

「夜兎先生のお尻が揺れてるぜ。イエー！イエー！」

夜兎先生は園児たちのむちゃくちゃなアドリブに、あたふたしてしまう。

「みんなーやめてー！いやー！」

「夜兎先生！おっぱいもませて！おっぱいもませて！チエキラー！」

「あたしも夜兎先生みたいにおっぱいガールになりたいわ。イエー！イエー！」

教室は地獄の雰囲気になった。狂った不良保育士と狂ったそガキともの狂気の宴。

調子に乗って窓ガラスを割る園児。机の上に飛び乗り、スカートを脱ぎ放尿する女園児。カスタネットを鳴らしながら頭をぐるんぐるん回す園児。タンバリンを叩きながら「うわお」とか「わっちゃあ」とかめっちゃくちゃに叫ぶ園児。

それにあわせ、ライス先生の演奏にも熱がこもる。ロックンロール。足で鍵盤を叩いたりしてる。ブタヲなどすでにすっぱだかだ。女児たちが「いやーん」と言いながら、テープを投げてる。色とりどりの照明。スピーカーから効果音。

「みんなー！やめてー！おねがいー！」

夜兎先生は両耳を手でふさいだ。夢なら早く覚めてー！！

スピーカーからがんに流れる効果音がノッてきたので、ライ
ス先生は「もうオルガン要らん」と判断した。オルガンから離れ、
夜兎先生のところへ駆け寄った。

「はあはあ。夜兎先生」

「ばか！」

夜兎先生は、ライス先生のほつぺたを思い切り叩いた。

「どうするのよ！こんな無法地帯！！」

「ごめんなさい」

「わー夫婦喧嘩が始まったぞう」

「ひゅう。ひゅう」

園児たちが群がり、口笛吹いたりしてる。

「もう知らない！ライス先生なんか、地獄へ落ちろ！」

「ごめんよう。許してよう。うわあああああん」

ライス先生が泣き出した。

「夜兎先生が怒ったよう。夜兎先生が怒ったよう。わあああああ
ああん」

「あつライス先生。もう困った子ねえ。泣かないで、泣かないで」

「うわああああん。うわああああん」

「もつと泣けい。もつと泣けい」

「夜兎先生。殴れい。ライスぶっ殺せい」

園児もヒートアップしてる。

スピーカーから流れるロクンロールはますます大音量になり、

夜兎先生とライス先生に照明がかかる。

「ライス先生のばか！勝手に泣いてなさい！」

「うわああああん。うわああああん」

ブタヲは別の場所ですっぱだかのまま狂ったように汗だくで踊っ
ていたが、誰も見てなかった。照明もかかっておらず、暗闇の中で
メタボな体を激しく揺らせ、ちっこいちんこを揺らせ、「おまんち
よ！」「クリっちょ！」とか叫びながら、ひたすらむちゃくちゃに
踊っていた。不気味だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3913/>

保育園（ライスバージョン）

2010年10月8日14時40分発行